

平成 30 年度

東京富士大学大学院 経営学研究科

一般入学試験Ⅱ期

論 文

<注意>

1. この冊子には、問題文(2枚)と解答用紙(3枚)が綴じてあります。
2. 試験開始の合図があるまで問題・解答用紙を開いてはいけません。
3. この冊子の表紙にある受験番号、氏名欄を必ず記入下さい。
4. 解答は「横書き」「日本語」で記入のこと。
5. 原則として、この冊子は交換しませんので、注意して扱って下さい。
6. 試験終了後、この冊子は回収します。

受験番号	氏名

次の問題 1 から 8 の中から 2 問を選択し所定の用紙（各問 400 字以内）に解答しなさい。
また、選択した問題番号を○で囲みなさい。

1. 人 D. マクレガーの「X 理論」・「Y 理論」を説明し、今日のマネジメントに与えた影響を述べよ。

2. コンティンジェンシー理論について論述しなさい。

3. 日本のバブル経済崩壊は 1990 年代以降の日本企業の株式所有構造に変化をもたらした。その変化のなかで、上場している日本企業（株式会社）のなかには、上場するメリットよりもむしろデメリットを強く感じる企業も出てきた。

株式会社が上場するメリットとデメリットとはどのようなものと考えられるか。それぞれ簡潔に記述しなさい。

また、上場している企業が非上場化する方法として MBO が用いられたりするが、MBO とはどのような方法か、簡潔に説明しなさい。

4. 起業家から新事業のビジネスプランが提示された。新事業のビジネスプランを評価する場合、あなたはどのような点を重視しますか。

5. 法人税法及び租税特別措置法における交際費等が損金不算入とされている理由を述べ、その内容を説明するとともに交際費等が争われた裁判例について解説しなさい。

6. 企業会計上の利益と法人税法上の所得の金額に差異が生じる理由について記せ。

7. 下記の【表：資産の分類方法】に記載された具体例「(a)」から「(d)」に対する期末評価方法を答えなさい。なお、解答にあたっては、当該評価方法を採用する理由にも触れること。

【表：資産の分類方法】

		形態による分類	
		金融資産	事業資産
性質による分類	金融投資	具体例(a)売買目的の株式	具体例(b)トレーディング目的の金地金
	事業投資	具体例(c)満期保有目的の債権 (取得原価と額面金額に金利の調整と認められる差額あり)	具体例(d)営業用に使用している建物

(注) 金融資産 (現預金、金銭債権、有価証券など)

事業資産 (棚卸資産、有形固定資産など)

金融投資 (時価の変動により利益を獲得することを目的として行う投資)

事業投資 (事業活動に利用することにより利益を獲得することを目的として行う投資)

8. 埋没原価について

(設問 1) 埋没原価の意義について述べなさい。

(設問 2) 株式会社富士社は、現行の機械設備を廃棄し、新規機械設備の導入を検討している。

この意思決定に際しての、埋没原価を求め、当該意思決定の可否を検討しなさい。

なお、下記の資料のみにもとづき検討し、他の事項は考慮する必要はない。

(資料)

現行機械設備

取得原価 2,000 万円

残存使用年数 3 年間

減価償却累計額 1,000 万円

処分価値 0 万円

年間の運転費用 720 万円

新規機械設備

取得原価 1,000 万円

年間の運転費用 320 万円

使用可能期間 3 年間

以上